



A病棟 助産師  
染矢 侑希

# A病棟における災害対策について

日に日に厳しい寒さも和らぎ、春の陽気を感じられるようになりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、今回は私が現在働いているA病棟の防災訓練についてお話しします。

忘れもしない2016年4月14日と16日、連続して最大震度7の揺れが熊本県を襲い、大きな被害をもたらしました。当時、私は4月に入社したばかりの新人で、震度6以上の地震発生時や大規模災害が予測される場合は病院に参集するようオリエンテーションを受けていました。そのため、地震がおきた直後にすぐに病院に駆けつけることができました。入社して間もないこともあり、できることが限られていましたが、同じように駆けつけた同期のみんなと一緒にそのときできることを精一杯行い、患者さんの安全確保に一生懸命だったのを覚えています。そして最近では2024年1月1日、石川県能登地方を震源とした能登半島地震がおき、新年からとても悲しいニュースとなりました。



私が現在働いているA病棟の入院患者さんは、切迫分娩や切迫早産等の安静が必要な妊婦さんや、帝王切開や婦人科手術（腹腔鏡手術・開腹手術）の術前・術後の方です。手術をした直後で、血圧計や心電図の機械を体につけていたり、尿の管が入っていたり、術後の痛みにより自分で歩くことができない重症度の高い方が多いです。そのため地震や火災などの緊急事態に備え、患者さんやスタッフの安全を確保できるようA病棟では防火防災委員会を中心に定期的に防災訓練を行っています。

訓練では避難の手順や適切な対応方法をみんなで確認し、危機管理の向上に努めています。ご自身で移動が困難な患者さんには「エアーストレッチャー」という空気応用担架を使用し避難場所まで搬送します。実際に患者さん役、スタッフ役に分かれてエアーストレッチャーの使い方を確認し、階段搬送の訓練を行います。



また、火災を想定して、消化器や消火栓の場所の確認や使い方の確認も行います。その他にもナースステーションに常備している避難用バッグの物品確認や、各病室においている「レスキューママ」という避難具の使い方についても確認します。レスキューママとは、ママとベビーが「一緒に」そして「安全に」避難できるスリング型避難具です。ベビーを安全にしっかり固定できるベルト付きで、厚手の防災キルティング素材のため火の粉もしっかりガードするという特徴があります。また、スリングの収納袋はママの防災頭巾として使用します。



いつ、どこで、どのような災害が発生するかわかりません。熊本地震で、当たり前で過ぎていた日常生活が崩れる瞬間の恐怖を味わいました。しかし同時に、その厳しさから学ぶことも多く、自らと周りの人々の安全を守るためには、日頃からの備えがなによりも大切であると痛感しました。防災意識が高まったことで私自身も防災グッズの備蓄や緊急連絡手段の確立、災害時に正確な情報を取り扱うためのネットリテラシーについて学びました。今後も緊急事態に迅速に対応できるように、個人・病院全体で災害対策を行っていかれたらと思います。



最後になりますが、この度の能登半島地震により被害を受けられた皆様へ心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の1日も早い復興をお祈り申し上げます。